

# 平成 21 年度 病害虫防除技術情報 第 1 号

平成 21 年 4 月 1 日  
大分県農林水産研究センター  
安全農業研究所

## 麦類赤かび病の防除対策について

赤かび病菌は人体に有害なかび毒（DON、NIV）を産生するため、赤かび病被害粒が 0.05 % 以上混入した麦は販売することができない。そのため、麦の生育ステージに合わせて適期防除を行い、赤かび病の発生防止に努めることが重要である。

麦の生育は播種日や品種、今後の気温の変動等により圃場によって大きく異なるので、圃場の見回りをを行い、生育状況や病害虫の発生状況の把握に努める。

### <防除対策及び留意点>

- (1) 小麦と裸麦では開花最盛期から 10 日間程度の間が最も感染しやすく、二条大麦では蒴殻抽出期（蒴が出始める時期）に感染しやすい。そのため、この間に降雨が続き気温が高いと赤かび病が多発しやすくなる。
- (2) 裸麦および小麦では、開花最盛期とその 7～10 日後の 2 回散布を基本とする。開花最盛期の目安は、裸麦は出穂 5～7 日後、小麦は出穂 7～10 日後である。  
二条大麦では蒴殻抽出期（蒴の出始め）とその 7 日後の 2 回散布を基本とする。蒴殻抽出期の目安は、出穂 12～14 日後（穂揃い期 10 日後）である。
- (3) 防除適期の期間が短いので、雨が降り続く場合は合間を見て散布する。  
水和剤、乳剤の場合は、散布後薬液が乾けばその後降雨があっても防除効果の低下は少ないとされている。粉剤では、散布後 5～6 時間以内に降雨があると防除効果が低下しやすいとされている。一般に水和剤、乳剤の方が粉剤よりも防除効果が高くなる。
- (4) 水田農業研究所による麦類の品種ごとの平年出穂期及び予想出穂期は下表に示すとおりである。本年の出穂期は平年よりかなり早いと予測されているが、播種日や 4 月以降の気温によっては出穂期が変動することも予想されるので、圃場の見回りをを行い、防除適期を失ないように計画的に防除を行う。

平年出穂期及び本年予想出穂期（宇佐市 11 月 20 日播種）

品 種	麦種	平年出穂期	本年予想出穂期	平年登熟期間
イチバンボシ	裸麦	4 月 7 日	4 月 1 日	出穂から 45 日
ニシノホシ	二条大麦	4 月 9 日	3 月 31 日	出穂から 42 日
チクゴイズミ	小麦	4 月 14 日	4 月 1 日	出穂から 49 日
農林 6 1 号	小麦	4 月 19 日	4 月 7 日	出穂から 47 日

平成 21 年 3 月 23 日現在

- (5) 防除薬剤は、大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針を参照する。  
(ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita/>)  
主要薬剤の麦種ごとの登録は次ページのとおりである。収穫前日数に十分注意すること。

【散布】

作物名	農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
小麦	トップジンMゾル トップジンM水和剤	1000～1500倍	-	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)
	シルバキュアフロアブル	2000倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	2回以内
	チルト乳剤25	1000～2000倍	60～150L/10a	収穫3日前まで	3回以内
麦類 (小麦を除く)	トップジンM水和剤	1000～1500倍	-	収穫30日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)
	トップジンMゾル	1500倍	-	収穫14日前まで	
大麦	チルト乳剤25	1000～2000倍	60～150L/10a	収穫21日前まで	1回

【無人ヘリコプターによる散布】

作物名	農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
小麦	トップジンMゾル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)
	シルバキュアフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内
	チルト乳剤25	8倍	800ml/10a	収穫7日前まで	3回以内
麦類 (小麦を除く)	トップジンMゾル	8倍	0.8L/10a	収穫21日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)
大麦	チルト乳剤25	8倍	800ml/10a	収穫21日前まで	1回